平成29年3月26日発行

大町山岳博物館友の会 第 170 号

ゆきつばき通信



行事のご案内

平成29年度山博友の会総会・講演会

講演会

~登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来~

セブンサミッター・ 山田 淳さん

共催 山岳文化都市宣言 15 周年·大町登山案内人組合創立 100 周年記念

《期 日》 4月16日(日) 午後1時30分 ~ 3時15分

《場 所》 山岳博物館 講堂

《参加費》無料

《申込み》 要事前申し込み (3/26 現在残席わずかです)参加希望者の氏名・住所・電話番号を FAX (0261-21-2133) またはEメール (sanpaku@city.omachi.nagano.jp) でご連絡ください。

《内 容》 七大陸最高峰登頂者(当時最年少記録更新)であり、山岳ガイド、株式会社フィールド&マウンテン代表の山田淳さんをお招きして、山への想いや山の魅力をうかがいます。(2月同封の案内を参照ください)

友の会総会

講演の後は 29 年度総会を行います。友の会の活動をより有意義にするために、ぜ ひ多くの方にご出席いただき、意見を交換いただきたいと思います。

《期 日》 4月16日(日) 午後3時30分 ~ 5時00分

《場 所》 山岳博物館 講堂

《内 容》 平成28年度の事業報告・決算報告 平成29年度の事業計画・予算案 役員改選 その他、会員からの提議に関する協議・決議 事業・行事へのご提案ご意見ご希望をお願いします。

※ 総会後、市内で懇親会を予定しています。

【山岳博物館・友の会共催事業】

鷹狩山 春のバード・ウォッチング

小鳥の声を聞く会の復活です。身近で親しみのある生き物であ る野鳥を中心とした観察を通して、生態系について学び、自然環境について考えます。

《期 日》 5月13日(土) 午前5時30分~午後0時30分 小雨決行

《場 所》 大町公園 ⇔ 鷹狩山山頂 (集合解散 山岳博物館駐車場)

《対 象》 子ども~大人(大町公園と鷹狩山山頂を徒歩で往復できる方)

《募集人員》 20名 (定員になり次第、締め切り)

《講師》 腰原正己さん 鳥羽悦男さん

《参加費》 一般:500円 会員:無料

《持ち物》 筆記用具、雨具、防寒具、観察道具(双眼鏡などある方)、朝食、お

椀・箸、敷物(ビニールシートなど)

《申し込み》 4月11日(火)から5月11日(木) 電話・FAXまたは直接、友の

会事務局へ (Tel/Fax0261-23-6334)

【共催事業 担当役員報告】

山の歴史ウォーキング 体感!山岳文化都市おおまち — 木崎湖編 — 自然の豊かさや歴史の魅力を体感

時: 平成 28 年 10 月 30 日 (日) 午前 9 時~午後 3 時

所:木崎湖周辺

指導:清水副館長 関学芸員

参加者:15名

今回の歴史ウォーク木崎湖編は木崎夏期大学を始終点に木崎湖を反時計回りに一周した。まず、西丸震哉記念館へ。杉原保幸館長より西丸震哉のことよりむしろ館周辺の地形地質や遺跡についてご説明いただいた。館の立地は洪積世の砂礫層で、氷期、旧石器時代から縄文期の遺物が出土している。火山灰の層序から日本最古級、8万年前と想定される石器(フレーク)が出土したことなどのお話をいただいた。また、河川争奪による居谷里湿原や稲尾沢の形成過程についても詳しくお話いただいた。博物学者と言っても良い西丸震哉氏の記念館で、館長からも幅広いお話をいただいて、カラフルにウォーキングをスタートした。

次に稲尾集落に入り、薬師堂を通り下諏訪神社を確認し、今も地域の方々が灯し続けている秋葉様の常夜灯など、旧街道の面影を抜けて湖岸を北上した。



海ノロ駅周辺は一津の縄文遺跡で、発掘によって多くのヒスイの加工品や原石が見つかり、内陸部での玉作りの遺跡であったことが明らかになったこと、遺跡は湖底にも延びていることなどが解説された。この後、阿部の五郎丸が討たれたとされる阿部っ渡の小さな祠の説明を受け、この地域に伝わる星の伝説、木崎龍燈のお話をして国道に戻った。

国道では、白馬山頂小屋の創始者、松沢貞逸氏の自動車事故現場の石碑を訪ね、 稲尾公民館横の海口庵、市の天然記念物のアカマツ「笠松」と圃場整備の記念碑を 見た。圃場整備は明治期の古いもので、県下から多くの視察が訪れたという。

昼食後は北岸の農具川に戻りカワシンジュガイ(大町市天然記念物・生息地は県の 天然記念物)、セタシジミ等のお話を聞いた。カワシンジュガイはライチョウ同様氷 期からの残存種で、10cm もないが、数十年も生きているものという。また、幼体はマ ス (イワナ) のエラに寄生するという。山からのきれいな水が入る近くの水路でも、 魚とともに観察できた。

西海ノ口では上諏訪神社でヒカリゴケを観察した後、弥生時代後期のものとされる同社の神宝の銅戈(どうか 市有形文化財)の説明を受けた。

その後、陰ってやや寒くなった西岸を森に戻り、キャンプ場を経て安倍神社側から 仁科神社にかけて森城址を案内いただいた。南側の市道部は土塁の跡でその南の集落 へ郭が広がっていた。今回各所で折りにつけご案内した活断層、神城断層と歴史地震 について、宮澤会長から解説いただいた。森城址から南の集落の高まりは活断層によ る変位と推定されている。

最後は、世田谷区からの学童疎開の案内のある湖南端の公園で、当時の状況や長く木崎との交流が続いていることをうかがった。すっかり天気が回復し雲ひとつ無い秋空と紅葉と青い湖面の美しさを見ながら、長くそして今も続く木崎の歴史と自然に思いをめぐらせた。

今回の歴史ウォーキングで、何気なく通り過ぎていたところにさまざまな歴史があったのだと認識を新たにした。ご案内いただいた清水副館長、関学芸員に感謝申し上げる。

(丸山卓哉)

ライチョウサミット「第17回ライチョウ会議長野大会」 報告

10月15日(土)・16日(日)

◆シンポジウム

<エクスカーション プログラム>

オリエンテーションでは山博での日本産ライチョウの飼育繁殖の歴史をうかがった。国内での生息域外保全(飼育)の取り組みで、スバールバルライチョウから今回の日本産ライチョウの孵化、飼育までの流れについて山博の担当からの説明があった。次に山博での今回のライチョウの採卵から孵化、育雛の様子を、スライドを使って教えていただいた。雛が保温や安心のため、ぬいぐるみのおなかに潜り込むように寄り添う姿、「これはダメな姿勢です」と見せていただいたのは、仰向けになって硬直したように足をつまさきまでをぴんと伸ばし目をつぶって寝ている雛の姿だった。

館内のライチョウ展示コーナーで丁寧な解説付きでライチョウの説明を受け、付属 園に向かった。まずスバールバルライチョウの真っ白なかわいい姿を見て、そのあと 日本産ライチョウの飼育舎を見学した。モニターに映し出されたライチョウはまだら に換羽しつつあり、もう雛とは呼べない大きさの元気なライチョウだった。活発に動 き回っていた。



<リレートーク>

午後は神谷コーディネーターの進行でリレートークが行われた。中村先生が、40年前には手つかずのお花畑がいっぱいあったのに、野生動物の生息域が変化したり温暖化の影響でお花畑がなくなりつつあること、ライチョウ保護のための捕食者対策のことなどお話された。燕山荘の赤沼さんはライチョウの雛の厳しい自然界での様子、登山者に望む、"野生動物にエサをやらない、ごみを出さない"などの注意を話された。三四六さんは野生動物が増えるのは登山者の増加もあるが、学校登山はぜひ続けていってほしいこと、ライチョウを脅かさないように、山を汚さないようにしようと言った。「ライチョウの唄」を歌った。すごく良い歌だった。



◆専門者会議

翌日の専門者会議はこんなにもライチョウに関心がある人、または専門家が多いのかと思うほど人が押しかけて、用意していた席が足りなくなった。

御岳山での噴火の影響はライチョウ個体群にはあまりなかったというのを聞いて安心した。生息域内保全に向けた取り組みとして、乗鞍岳では、捕食者を確認するためのセンサーカメラを設置したり、高山帯に進出したカラスの捕獲を進める。また東大天井ではニホンザルが出没することから、雛がいる場合追い払う体制の構築、ニホンザルに GPS 発信機を装着して行動を追跡するなどの報告があった。

南アルプス北岳で、孵化後の雛を一か月間ケージで保護した経過が報告された。その結果、長期間のケージ保護の必要性と並行して、キツネ、テンといった捕食者対策が必要であることが示唆された。

生息域外保全では上野動物園では前回の個体の死亡の原因を究明し、衛生管理面など飼育マニュアルを作成した。富山、山博でも順調な飼育であるとの報告がされた。ちょっと面白かったのは日本産ライチョウの腸内細菌の話である。ライチョウの食草には種々の毒物や反栄養物質が含まれておりライチョウの腸内にはこれらを解毒できる細菌が備わっている。飼育下の個体は野生の生活に必要な腸内細菌を得ることが難しい。すこし専門的なお話だったが、飼育下のライチョウがいずれ自然界で生き抜くためにはこれからも様々な分野での研究が必要だと思った。

(丸山優子)

長野県環境保全研究所 信州自然講座

「生物多様性の宝庫、北アルプス北部の今 とこれから」 報告

12月3日、サン・アルプス大町大会議室で 行われました。地形地質、気象、動植物につい てそれぞれ講演があり、山岳博物館宮野さんの ライチョウ飼育のお話がありました。

高社山と中綱湖を結んだ線(高社山-中綱湖



線というらしい)により北陸型気候区と中央高地型気候区に分けられ、北アルプス北部は生物多様性が高く、一方で環境の破壊や変化でホットスポットになっています。

講演

後立山連峰の成り立ち 富樫 均氏 信州の生物多様性ホットスポット-白馬連山の高山植物- 尾関雅章氏 北アルプスの雪は将来どうなるのか? 浜田 崇氏 北アルプスに迫るシカ-シカの登山ルートを探る- 黒江美紗子氏 高山帯のシンボル,ライチョウの生息域外飼育の取り組み 宮野典夫氏

信州大学自然科学館 ミニシンポジウム

「信州の博物館で何ができるの?」報告

12月10日、信州大学理学部1番講義室で行われました。主催の信州大学自然科学館は市民への啓蒙活動を行っている機関で、市民参加を目指し、協力者を発掘することをテーマとして集まりが持たれました。関係者を含めても参加者が30人余りと、ちょっと寂しかったのは残念でした。信大自然科学館には県内の博物館や



科学館を、さらには市民をつなぐ役割を積極的に果たしていただきたいと思いました。

千葉さんからは、友の会とのかかわりや共催事業のこと、麻田さん(元信州大学地域戦略センター)の大町市定住促進研究支援事業の調査結果などの報告がありました。

講演

- ○『ホタルも棲める良い自然』の市民活動が目指すもの 藤山静雄氏(信大)
- ○市民と共に歩む博物館の事例 若宮崇令氏(八ヶ岳総合博物館)
- ○氷河時代のナウマンゾウと人類を求めて-野尻湖発掘と地域の博物館が目指すもの-近藤洋一氏(野尻湖ナウマンゾウ博物館)
- ○親しまれる博物館をめざして-地域資源を生かしたはじめの一歩-千葉悟志氏(大町山岳博物館)

(編集部)

烏帽子の会

活動報告 福地 山

《月日》10月22日(土) 《天気》晴れ 《参加者》11名

《コース状況:その他周辺情報》

上高地線に入るまでに少し遠回りとなったり、安房トンネル出口料金所で時間がかかったりして少し遅れ気味になったが、予定よりわずか10分の遅れで登山開始できた。登り始めて20分ほどで焼岳展望休憩所があり、続いて尾根・谷川コース分岐点では尾根コースを選択、道を開いた憮然像に感謝のお参りをした。次の



尾根・谷川コース第2分岐点では谷川コースを選択し、第2展望台、第3展望台、乗 鞍展望台、第4展望台を経由して頂上に到着した。ほとんどが落ち葉に埋まった平坦 な道で、木の根や石コロと言う厄介物が無く気持ち良く歩けた。紅葉も100%とは行か ないが、かなり進んでいて十分楽しめた。

《感想》

槍・穂高、焼岳、乗鞍を岐阜県側から見る事は珍しいので新たな感じを受けた。また笠ヶ岳が目の前で、槍ヶ岳に匹敵する迫力があり、新たな発見でもあった。随所に展望台があり、その眺望を楽しみながらの登山で、疲れを感じずに進めた。全般的に道が平坦で歩きやすく、烏帽子の会のベテラン登山者達には少し物足りなかったかも知れない。露天風呂からの目の前の笠ヶ岳の景観も期待したが、雲の邪魔が入り初めて少し残念だった。

《コースタイム》

松川道の駅(6:00) 2台の車で出発 → 風穴の里(7:00) → 福地温泉登山口着(8:00) → 登山開始(8:10) → 尾根コース・谷川コース第1分岐点(9:15) → 篠原憮然像(9:30) → 尾根コース・谷川コース第 2 分岐点(9:45) → 第2展望台(10:10) → 第3展望台(10:20) → 第4展望台



 $(10:40) \rightarrow 頂上到着$ $(10:50) \rightarrow 頂上出発$ $(11:30) \rightarrow 登山口到$ 着 $(13:15) \rightarrow 平湯温$ 泉 $(13:50 \sim 14:50) \rightarrow$ 松川道の駅到着 (16:45)

「槍と笠 双子に 見せし 福地山 アルプスも良し 紅葉も良し」

活動報告 冬 の 福 地 山

《月日》2月4日(土)《天気》快晴《参加者》8名

《コース状況:その他周辺情報》

下見の時に比べるとかなり雪が積もっていました。たぶん多いところで1mぐらいは積もっていたのではないかと思います。

スノーシューの人・軽アイゼンの人・何もつけない人といましたが、登山者も多い ところのようでしっかりと踏みあともあって歩きやすかったです。

《感想》

これ以上ない晴天に恵まれ 最高の山行でした!

風もなく穏やかで焼岳・槍 ケ岳・笠ヶ岳と景色を堪能し ました。途中宮澤さんからも 山のレクチャーを受けとても 有意義な一日でした。

今回は秋に松井さんご夫婦に連れてきていただいた福地山がすごく良く、雪の福地山にも行きたいという声があり実現しました。四季を通して訪れてみたい山だな~と思いました。春の新緑・秋の紅葉と楽しみです。

お風呂はバスセンターの上の展望風呂を予定していましたが、営業時間外になってしまってすぐ隣の「平湯の森」を紹介していただきました。





「平湯の森」も広くてとても気に入りました。次回また福地山に来たときには寄りたいと思います。

今回残念ながら参加できなかった方は、これからも福地山は計画したいと思っていますので、次回ぜひ参加してください。

《コースタイム》

松川の道の駅 7:00〜福地山駐車場 8:45〜登山開始 9:15〜頂上 13:00 昼食〜下山 14:00〜駐車場 16:00

花めぐり紀行

花めぐり紀行⑧

スカシユリ自生地 (新潟県:角田山)をめぐる平成28年6月15日 (水) 参加者6名

当日は、天候に恵まれすぎ、暑い一日となりました。

灯台コースということもあり、出発地点は砂 浜からとなりました。お目当てのスカシユリに はすぐに出会うことができました。開花は例年 よりも1週間から10日ほど早かったようで、最 盛期は過ぎていましたが、近くで観察したり、 アゲハチョウ類が吸蜜に訪れる姿を観察したり と満喫することができました。



花めぐり紀行9

田ノ原湿原(長野県山ノ内町)をめぐる 平成28年7月3日(日) 参加者8名

当日は、天候は曇から雨で、 降ったり止んだりの繰り返し でした。

今年(平成28年)は、季節が早く到来してしまったのか、ヒメシャクナゲはすでに凋落した状態で、長く伸びた花被がワタ状に見えるワタスゲも見ごろが過ぎていました。

田ノ原湿原は、周囲はシラ



カンバに囲まれ、一部がスキー場として利用されていて、その斜面には、ゼンテイカ (ニッコウキスゲ)が咲きはじめ、これからは、ヤナギランを楽しむことができ、違 う季節にも訪れたいと気持ちにさせる観察会でした。

山岳文化研究会

活 動 報 告 山岳博物館友の会サークル「山岳文化研究会」

山岳文化史に興味・関心を寄せる友の会会 員が集まり、登山史を含め、北アルプスとそ の山麓の歴史や民俗などについて、相互に研 究を重ねる場です。定期的に会合を持ちなが ら、研究テーマにもとづいた調査研究活動を 行いました。

本年度後期の具体的な活動内容は、下記のとおりです。

【本年度後期の活動内容】

(1) 定例会

①第3回… ○期 日:12月1日開催

○場 所:山岳博物館

②第4回… ○期 日:2月23日開催

○場 所:山岳博物館



【写真】定例会のようす(第3回)

(2) 研究テーマ「後立山連峰周辺における近代登山史の文献調査」

山岳博物館発行の書籍編集に協力しました。

○書 名:『北アルプス登山史資料3

―黒部川側からの登山史・後立山南部地域登山史―』

○発行日: 平成 29 年 3 月 31 日 (予定)

(サークル事務局担当:関)

ボランティアサークル

ボランティアサークルでは、定例的に第4日曜日に博物館での除草や清掃作業、山と博物館の封入作業などを行っています(2月まで11回/延べ121人)。博物館事業関連ではライチョウサミットのお手伝い(延べ17人)やイベントの受付などを行いました。

研修は下記の通り、飯田方面へ出かけ、地形地質の研修や見学を行いました。 本年はライチョウの逃げ出しという思わぬ事態にサークルメンバーはもとより、会 員の方々、そして多くの市民の皆さんが捜索にかかわりました。

研修 御池山隕石クレーターと日本のチロル「下栗」報告

2016年11月6日 21名参加 ボランティアサークル主催

少し寒気が入ったせいか安曇野を出発する ころは雲があったものの、伊那谷に入ってほぼ 快晴の秋らしい天気に恵まれました。

参加者がそろったところで、早速講義。今回 は博物館から地質の矢野専門員に参加いただ き、日本列島が「付加体」という大陸の縁に太 平洋側から押し寄せてたまったものや陸側か ら供給された物でできていて、その過程で地下 にはマグマが固まって花崗岩ができたこと、そ してこれらが日本列島弧を形作りながら隆起 浸食されて土台となり、さらにアルプスの隆起 量が大きくなって今の形になっていったこと をお話いただきました。

伊那谷に入って、宮澤会長から中央・南アルプスを左右に見ながら山座同定、勘太郎月夜唄から「伊那は七谷」で大田切、与田切などの田切地形の話し、松川ICを降りてからは、活断層起因の河岸段丘を3段ほど下って天竜川を渡り伊那山地に入りました。伊那山地も大きな山塊で、徒歩の時代には辞職峠といわれた小川路峠などの話などを聞きながら矢筈トンネルで一気に秋葉街道の程野へ。さらに中央構造線を東に越えてしらびそ高原に上りつけました。

ハイランドしらびそ前の小山で少し雪の来 た塩見から池口までの南部南アルプスを一望 し、ライチョウの南限である光岳も確認しまし た。

林道を南に下って程なく御池山クレーター。 北側の見晴らしでクレーターの地形(?)を確認した後、5分ほどの小山に登ってクレーター の縁に立ちました。今度山博にも隕石と隕鉄の 展示が入るとのこと。日本唯一の隕石クレータ の縁に立った経験はタイムリーでした。

お昼は下栗のはんば亭で下栗産の盛り込まれた定食。折から下栗ふれあい祭りの混雑の中、 予約の甲斐あってスムーズにいただけました。 食後は祭りでいろいろな農産物などを買い込 み、バスはトランク利用です。

午後は徒歩 20 分ほどの下栗集落のビューポイントへ。ちょうど大手会社の団体も着いて、狭い山道はちょっと混雑しビューポイントもゆっくりできませんでした。下栗、すごい集客力です。

半場へ戻って下栗集落へ下ってバスに乗って旧上村の中心部上町へ。祭り伝承館「天伯」 や山村故郷保存館ねぎやを見学しました。天伯

では館の方から展示の説明や祭りの様子などをうかがいました。地元の方で、自分の生活に密着した解説は、明瞭で説得力がありました。ボランティアサークルにとっては、この日一番の収穫だったかも知れません。有名な霜月祭りですが、観光化の中で祭りを担う人手の少ないこと、地域の子どもたちが少なくなっていることなどもうかがいました。





ルを戻りました。帰路は今回下栗で教え子のご家族に会えた有川さんから、教職時代に飯田から下栗や清内路へ自転車で家庭訪問したことなど、懐かしくお話いただきました。

駒ケ岳SAからは少し山の歌も

かみむら直売所で買い足しをして(あげパンは売り切れだった)程野へ北上して矢筈トンネ

歌って、一日の総括もして研修を終了しました。

ゆきつばき通信編集室より

今回は総会の案内と後半行事の報告などになります。総会では改めて写真などを含めて報告 になりますので楽しみにしていてください。

1978年に結成された友の会(新生)は来年40周年を迎えます。そこで何らかの記念事業を行いたいと思っています。記念山行、記念講演、あるいは博物館への記念寄贈などいろいろ考えられます。ぜひ皆さんのご意見もお寄せ下さい。

ゆきつばき通信には皆さんの行事参加感想文や山行の投稿なども載せていきます。ぜひ投稿 をお願いします。次号は総会後に発行の予定です。

〔投稿先〕

編集部丸山アドレス takuya-m@juno.ocn.ne.jp (件名に「ゆきつばき通信」を付けてください) もしくは、山岳博物館の事務局にお送りください。

(丸山卓哉)

山博ページ http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会ファミリー 4,000 円 個人 3,500 円 学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生~大学生までをさします。 4月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。 賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信 第170号

発行/大町山岳博物館友の会 平成 29 年 3 月 26 日 〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1 大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334